

研ぐ時空

~GLが僕らにくれたもの~

GLの解釈

GLと聞いて皆は、今見えている地盤をGLととらえるだろう。
だが、今見えてるGLは、途方もない時間をかけて作られたものだ。
上から見れば二次元的にしか見えないGLも時間という次元を取り込むことで
三次元的に解釈できる。つまり、それは「地層」である。
僕は、GLから「地層」を考えた。

Concept

人間は適応する生き物である。
が、忙しい現代社会とその社会に適応する中で「大切な感覚」
を置き忘れ「感情の劣化」が引き起こされている。
例えば、電車の中で誰も外の景色を見ない。見るのはスマートフォン。
電車の車窓から入ってくる、暖かい日差しや移り行く景色を楽しんでいる人はどれだけいるだろうか。
こういった、日常に転がっている自然との関わりあいから出てくる感情を言葉にする機会が失われ、
言語化できない未解決の問題として集積し「感情の劣化」が引き起こされているように思う。
僕は、自然に建築をゆだねまた自然を建築で切り取り、そこに来た人が五感で意識し
自然を感じる。その研ぎ澄まされ、洗練した時空間のなかで五感を研ぐ建築をこれからの建築と考えた。

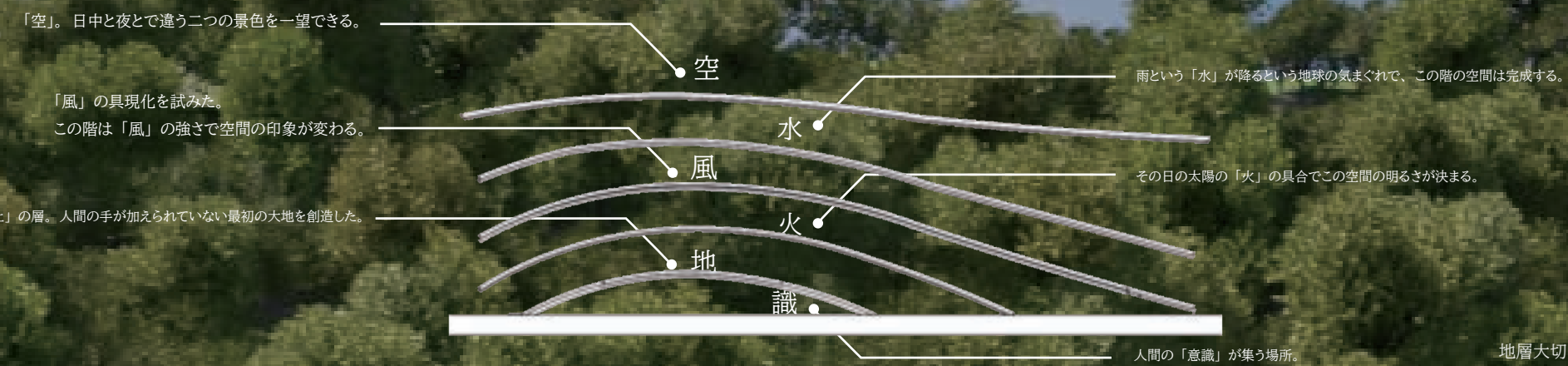
Context

建築場所は、東京都伊豆大島町。黒潮の影響により、気温の日格差と年較差
が小さい温暖多湿な気候である。年間降水量は約2,800mmと多雨である。
そして、日最大風速約10m/s以上の強風日数は、年間の1/3に達する。
また、伊豆大島町には多くの名所がありそのうちの一つに地層大切断面がある。
そこは、地層を眺める施設はなく車の車窓から前から後ろへと流れる地層を
眺めるだけになっている。
僕たちは、このような自然の荒々しさとじっくり地層を眺める場所のない
この場所を建築場所と決めた。

Diagram

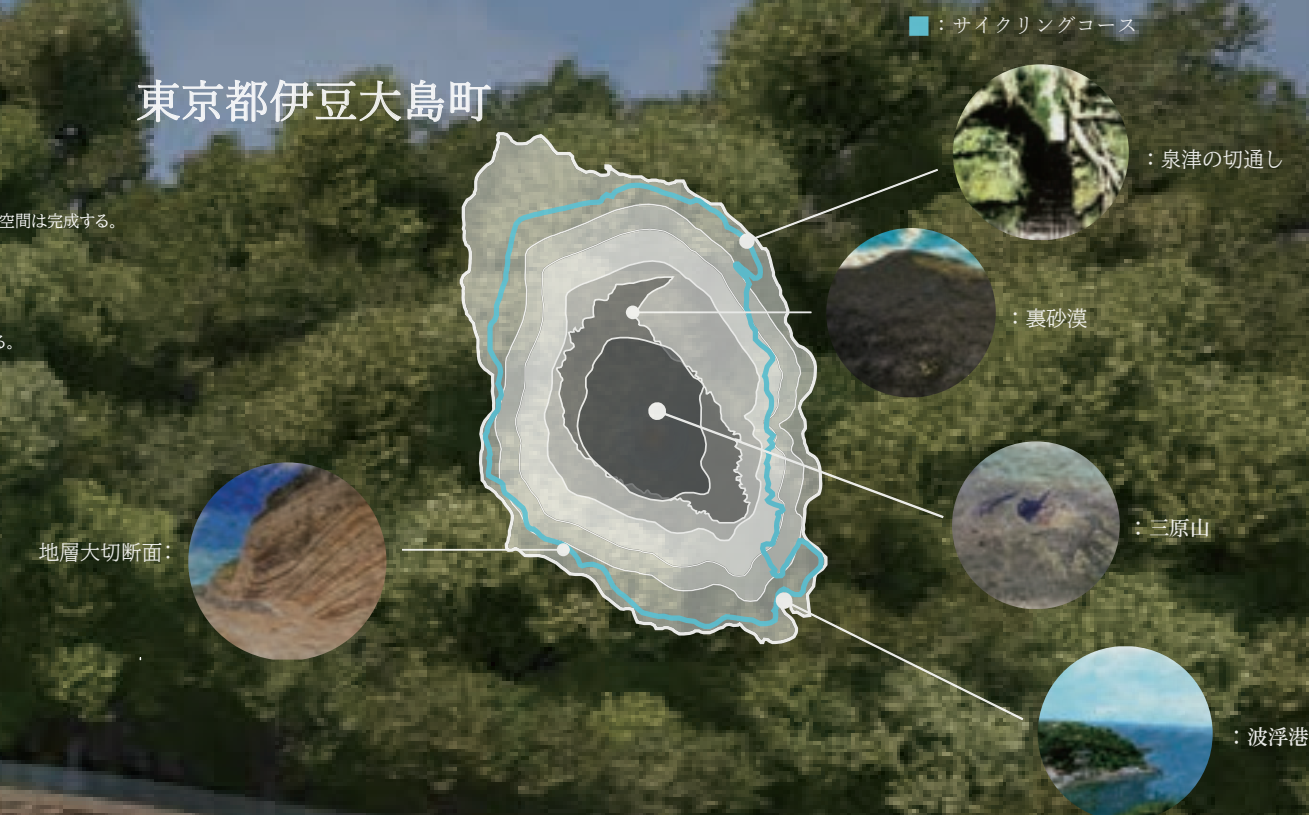


1. 地層の形が天井と床を決める



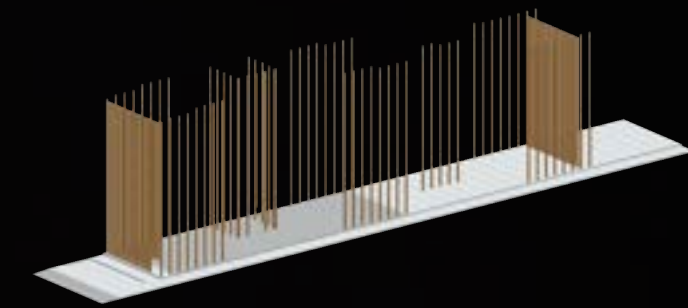
2. この地球を創っている要素に分解して各階をその要素に当てはめ用途を決める。

東京都伊豆大島町

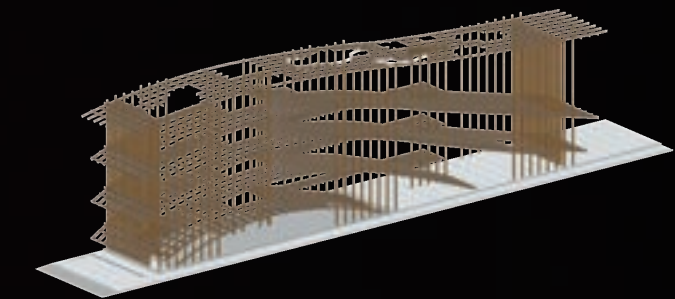


構造、施工順番

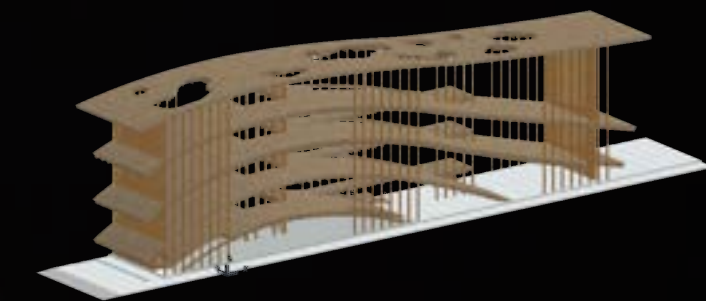
1. 柱、基礎を施工する



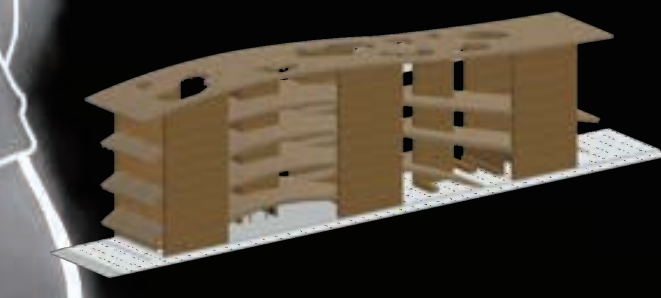
2. 梁を各階に通す



3. 天井、床を施工する



4. 土壁を施工する



空エリア：日中は太平洋の海を一望できる。風が運ぶ潮の香りを楽しみながら自然を体感する。夜は、空一面に広がる星空を楽しむ。

嗅 視



ホエリア：風が吹くときと天井に設置されたトランプライトが水筒に変わる。得た空の匂い、その水筒を通して4層階の高さから空の匂いを感じる。地球の匂いを感じながら過ごす。

視

ホエリア：風が吹くときと天井に設置されたトランプライトが水筒に変わる。得た空の匂い、その水筒を通して4層階の高さから空の匂いを感じる。地球の匂いを感じながら過ごす。

触 視

ホエリア：風が吹くときと天井に設置されたトランプライトが水筒に変わる。得た空の匂い、その水筒を通して4層階の高さから空の匂いを感じる。地球の匂いを感じながら過ごす。

触 視

カフェ：人と人が意識をしてコミュニケーションに集中できる空間になっている。

味 嗅

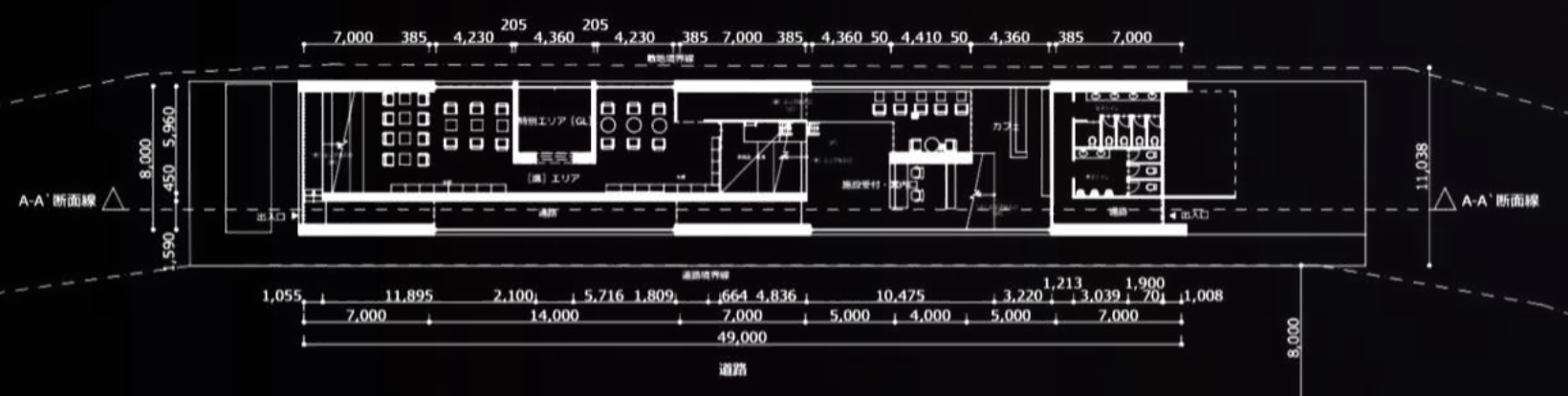
ホエリア：コネクティブな空間と化した部分では高さでも踏みしめる感覚から失われている。ここでは、下階に足をかけて高さでの感覚、匂いを感じながら過ごしている。

視 触 嗅

特別エリア：2階から6階までのスタンプラリーを終えると、入れる空間。地層の大断面の迫力を体感できる場所になっている。

視

地層

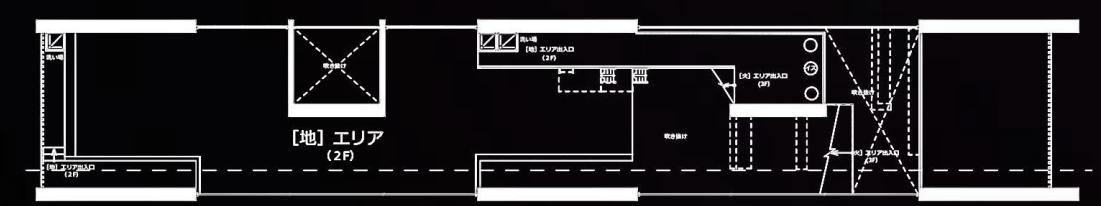


一階平面図兼配置図

四階平面図



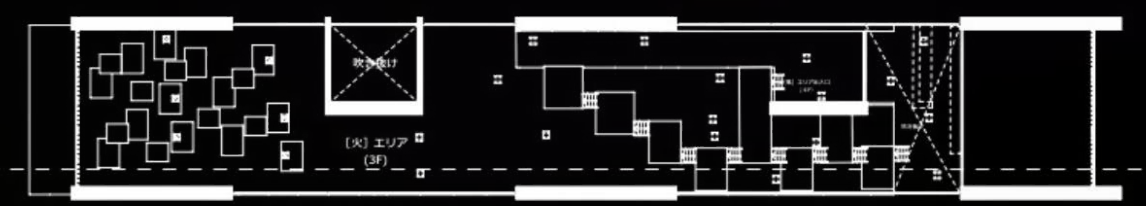
二階平面図



五階平面図



三階平面図



屋上平面図

